



西初石小学校 相談室だより



令和7年1月7日

スクールカウンセラー 野口恵理



明けましておめでとうございます。今年のお正月はご家族でゆっくりと過ごすことが出来ましたでしょうか？保護者の皆さまがお子さまとの時間を楽しめたと感じいらっしゃるのであれば、お子さまにとってもきっと幸せな時間であったことと思います。たっぷりと充電し、3学期もよいスタートが切れる良いですね。

今回は『学校のことを話さなくなる子どもの心』をテーマに書いてみたいと思います。

親から見ると、今までいろいろと話していた子が急に学校のことを話さなくなり、心配することがあります。原因は、いくつか考えられます。

一つには、成長の過程で自我の発達とともに内面をさらけ出さなくなることがあります。10～12歳(5～6年生)くらいに多く見られます。反抗的な態度をとってしまったり、親を避けるようになったりすることがあります。心理的自立を求めているのですから、深く詮索しすぎないようにしましょう。わが子が成長した証と考え、少し離れて見守っていきましょう。

二つ目は、親が相手にせず「いつも聞いてくれないので、話す気持ちがなくなった」という場合です。これは大人が日常からゆっくりと聞く姿勢を持つことで、解消していきます。

三つ目は、嫌なことがあったので触れて欲しくないと思う時、四つ目は「先生やうちの人はわかってくれない」という不満を持っている時です。三つ目と四つ目については、丁寧な聞き取りが必要です。一緒にお風呂に入った時や食事の時間など、気持ちがリラックスしているタイミングで、日常の会話を増やすように心がけましょう。身の回りのことばかりを聞き出そうとするのではなく、興味のあるゲームや本について、スポーツ、おしゃれ、習い事、あるいは学校での係や委員会活動、クラブ活動などを話題にしてみるのが良いでしょう。また、最近話題になっているニュースや大人のかかえている困りごとなどを話していき、「〇〇(名前)はどう思う?」「〇〇(名前)ならどうする?」と尋ねてみましょう。子どもなりの解決法や考えを話す機会を意識的に多くしていき、ゆっくり聞く時間をとっていきます。そうすると、子どもは一人前に扱われているよううれしくなって、自分の話もしやすくなることもあります。

ただし、家庭での子どもの様子から、学校のことを話題にしないことが不自然に感じられることがあります。学校でいじめられている子どもが、教師だけでなく親に対しても身構え、「自分で解決しなくては」「親に心配をかけたくない」「いじめられていることは恥ずかしい」「せめて家では普通の子どもでいたい」などの思いから、親を避け学校のことを話題にすることを避けようとすることがあります。このような場合は、子どもの気持ちに配慮しながら、周囲ときちんと向き合い、対処していくことが求められます。



◎2学期の相談日時 【 10:00～16:15 】



21日 (火)



3日 (月)
18日 (火)



11日 (火)

※ご相談内容に関しては、本人の同意のない限り秘密は守りますので、安心してご相談ください。